

たくさんの笑顔で地域をつつみます。

広報

せきあい

通巻10号

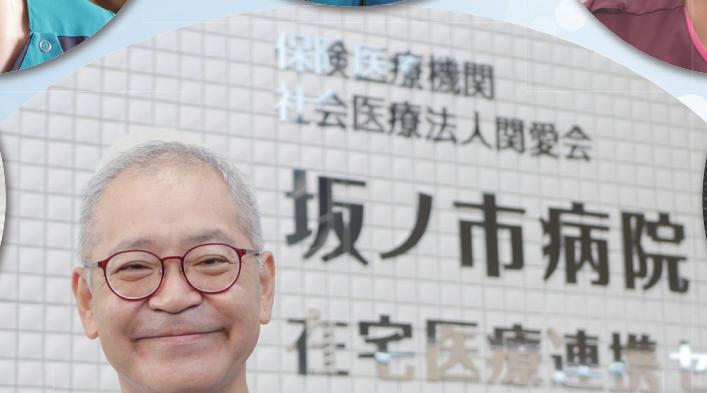
2021年

冬

発行:社会医療法人 関愛会

特集

よりそい、つながり、つむぐ
坂ノ市・神崎エリアの多職種連携



第2特集……………第39回大分県病院学会で職員が発表

きよかわの風……………消すまい文化の灯 医師の脚本演じた地元劇団

地域を深掘る……………学校給食でおなじみ 創業100年余の古山乳業

もっと教えてドクター…小児科医が子宮頸がんワクチンを解説

よりそい、つながり、つむぐ

坂ノ市・神崎エリアの多職種連携

老いても病んでも安らかな暮らしを

地域で人を支える医療と介護

「病院完結型」から「地域完結型」へ——。日本の医療が大きな変化を求めるなか、社会医療法人関愛会は、2004年の設立当初から地域で暮らす「生活者の視点」を大切にしてきました。目指すのは、年をとっても病気になつても、最後まで住みなれた地域で暮らし続けるお手伝い。そのためには、介護や福祉が力を合わせる必要があります。

■ALSだと立てた

それは、ちょっとした「奇跡」が起きた瞬間だった。11月5日午後、大分市本神崎にある「ナーシングホーム輝（ひかり）」の一室で、人工呼吸器をつけたALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者、Kさんは、ちょっとぐらつきながらも、ベッドサイドに立ち上がり始めた。「すごい、すごい」。倒れないよう支えるスタッフからは驚きの声があ

がつたのも無理はない。1カ月前、Kさんが立つ姿を誰が予想できただろうか。

■退院して「自宅」に

暦の上ではとうに秋だが、夏のようない日差しが照りつける。10月6日朝、「輝」のスタッフは、新たな入居者を受け入れる準備に追われていた。



車で30分ほどの大病院から救急車が到着した



ストレッチャーから8人がかりでベッドに移した

午前11時前、1台の救急車が静かに到着した。車で30分ほど離れた急性期病院から退院してきたのは、人工呼吸器をつけたばかりの70歳代のKさん。ストレッチャーに乗ったまま、4人がかりで慎重に「輝」の中に運ばれ、スタッフ・ステーションに最も近い1号室に入る。ベッドへの移乗には8人が

■病院並みの老人ホーム

関愛会のベテラン看護師で、「輝」の管理者である上本文子が、Kさんに声をかけた。「今日からここが『ご自宅』です。落ち着いたら、ゆっくりお話ししましょうね」。

そう。木製のフローリング、オフホワイトの壁紙が落ち着いた雰囲気を醸し出す「輝」は、治療するための病院とは違う。日常生活の場、有料老人ホームである。

もよりやや低めのようだ。救急車に乗つての移動が心身に負荷をかけたのかもしれない。

永井たちMEは週1回の定期的なチェックに加えて、緊急時には時間外でも現場に駆けつける。「看護師や介護職は24時間の見守りやお世話をす

る。何かあれば生死に直結するので気が抜けません」と永井。その言葉には、「輝」で働く同僚たちへの自然なリスクペクト（敬意）がにじんだ。

医療や介護の注意深いケアが必要な方がほとんどだ。

「輝」の入居者への医療は、訪問診療する医師と、訪問看護ステーションの看護師が担い、介護は、「輝」所属の介護職が行っている。

「老人ホームなので検査機器などはありません。でも、ベテラン職員が多いので経験値は高い」。坂ノ市・神崎エリアの看護師を統括する上本はそう評する。



「輝」には人工呼吸器を使う入居者が暮らす

まで佐賀関・神崎エリアに「病気は治つたが、生活するうえで引き続き医療的ケアが必要」という住民が暮らせる施設はなかった。

このままでは、住みなれた地を離れ、遠くの療養型の病院に入院せざるを得ない住民が増えてしまう。しかし、国の方針により病院のベッド数が厳しく制限される中で、この地で新たな病院をつくるのは非現実的だ。そんな状況を打開すべく生まれたのが「ナーシングホーム輝(ひかり)」だつた。

どんな病を抱えた入居者であろうとも、住みなれた地での「在宅生活」を丁寧に支える。そのため手厚い医療的ケアのできる「第3の病棟」になる。日常的に医療を必要とする人のための施設を意味する「ナーシングホーム」。「輝」がそう名乗るゆえんだ。

■「ゆれる心」によりそう

手厚い看護や介護を受けるとはいっても、入居者はごく普通に地域で暮らしてきた人たちばかり。他の有料老人ホームと比べ、特に料金が高いわけでもない。公的な医療保険と介護保険などの給付を使えば誰でも入居できるよう料金設定してある。

「輝」ができたのは2015年。それ

まで佐賀関・神崎エリアに「病気は治つたが、生活するうえで引き続き医療的ケアが必要」という住民が暮らせる施設はなかった。

このままでは、住みなれた地を離れ、遠くの療養型の病院に入院せざるを得ない住民が増えてしまう。しかし、国の方針により病院のベッド数が厳しく制限される中で、この地で新たな病院をつくるのは非現実的だ。そんな状況を打開すべく生まれたのが「ナーシングホーム輝(ひかり)」だつた。

どんな病を抱えた入居者であろうとも、住みなれた地での「在宅生活」を丁寧に支える。そのため手厚い医療的ケアのできる「第3の病棟」になる。日常的に医療を必要とする人のための施設を意味する「ナーシングホーム」。「輝」がそう名乗るゆえんだ。



訪問診療の医師は在宅生活を支える要となる

自宅での療養生活を支えるため、主治療として月2回、訪問診療に入った医師が管轄(すが・さとし)だった。坂ノ市病院の院長である。

Kさんは、体調を崩したり大病院で

その決断は、あまりに難しい。国が提唱する「人生会議」(アドバンス・ケア・プランニング)は、本人、家族、そして医療や介護などケアに携わる人が繰り返し話し合い、本人の意思決定を支えるプロセスだ。

話し合いを重ねるなかで、Kさんも一度は「つけない」という意思表示をしたこともあった。

「でも、つけるか、つけないかの間で、心はゆれる。1回話し合って決めたら最後というわけではない。そのゆれに、おつき合いするのが、私のスタンスです」。そう話す管は、病が進むなかでも、ゆれる振り子の針は、「生き続ける」という選択へ向かっていると感じていた。家族とのきずなが強まっていたからだ。

人工呼吸器をつけるため、県内の大病院へと転院する直前、坂ノ市病院所属の言語聴覚士、田嶋由貴はKさんにある提案をした。

「呼吸器をつけると自分の声が出せなくなります。その前に家族へのメッセージを録音しておきませんか」

息苦しさに耐えながら、絞り出すよ

て医療者にとつても、呼吸器をつける

うにKさんが語ったのは「迷惑をかけたな。ごめんな」という謝罪の言葉がほとんど。だが、最後にこう言つた。

「まだ生きてるから、お願いします」と。

Kさんには家族の支えがある——。管の洞察が的を射ていたことは、入所の日に駆けつけた家族2人（妻と娘）の様子から十分にうかがえた。

病院ではコロナ禍で面会もままならず対面できたのは、ほぼ2カ月ぶり

という2人は、「呼吸が苦しかったときと比べると、表情がずっと穏やかになりました」と口を揃えた。

家族から声をかけられ、手を握つてもらつたKさんは、満面の笑顔を見せた。あたたかく親密な空気がベッドサイドを満たした。

同じころ、「輝」のホールでは、介護福祉士の内田昭彦が黙々と病院から運ばれてきたKさんの私物を整理していた。ここで24時間365日を過ごす入居者にとって、快適な生活の場にできるかどうか。すべてのスタッフの地道な営みにかかっている。



介護職の地道な営みが日常を支える

る側にも立つ。
どういうことか。

関愛会では法人全体で1200件近い訪問診療を行つて。最も多いのは、大塚が常駐する坂ノ市病院で340件（2021年現在）。その訪問診療は、医師が月1～2回診察に訪れ、24時間の連絡に応じるのにとどまらない。

本人とご家族と会つて、訪問診療について十分に説明し納得してもらつてから契約を結ぶ。適切な介護などサービスを受けられるようケアマネ

ジャーや行政、有料老人ホームの担当

者と調整する……つまり、「在宅」での生活をコーディネートすることすべてが含まれる。

通常の退院支援を超えて、本人を取り巻く「社会」と向き合う。それが関愛会で求められるソーシャルワークだ。大塚はそのことに面白さを感じ、また

誇りに思つてている。

Kさんが「輝」に入居するまでには糸余曲折があつた。もともと、新しくできた別の有料老人ホームに入居することが決まっており、それに備えて住んでいたアパートも引き払つていった。

■「おかえり、Kさん」

「輝」への入居後しばらくたつたK

さんのもとを訪れたのは、大塚奈々。

坂ノ市病院地域連携課で、在宅医療の調整を担う医療ソーシャルワーカー

は難しくなつた。こうした状況の変化を逐一、家族やケアマネ、ホーム側と情報共有する役割も大塚が担つてきた。

ちょっと寂しがり屋のKさん。家族と「会話」が何よりの癒やし——。そう感じた大塚はある提案をした。

意思伝達装置の活用だ。センサーを使用し、身体の一部をわずかに動かすだけで文字などが入力できる機器で、市に申請すれば購入費が支給される。ニーズを発見し、制度の利用を提案する。状況の変化に対応しながら「生



MSWは「在宅生活」をコーディネートする

■「あきらめない」リハビリ

Kさんの「輝」入居から2週間ほど

ところが病の進行が速く、より高いレベルの医療的ケアが必要となり、でたつた。

「少し体を起こしてみましょか」。

通常、病院勤務のMSWは、入院患者を自宅や施設に「送り出す」のが仕事。だが、大塚をはじめ坂ノ市病院のMSWは、退院する患者を「受け入れ

作業療法士(OT)の富永隼斗は、電動ベッドの角度を少し上げた。

人工呼吸器をつけたALSの患者であつてもリハビリは生活の質(QOL)を維持するのに不可欠だ。富永は、言語聴覚士(ST)の柴北美由貴とともに訪問リハビリテーションに通っている。

当初、2人が目標に掲げたのは、ベッドに座る姿勢(端座位)をとれるようになることだった。Kさんのように、呼吸する力が弱まると痰がたまりやすくなる。寝た切りだと、たまつた痰を自分で押し上げるのが難しくなり、吸引の頻度が増す。本人にとって大きな負担だ。



作業療法士と言語聴覚士がリハビリを担う

身体面とともに気がかりなのは、精神面への影響だ。「寝たきりのままだ」と、Kさんには少し苦しげな表情になつた。無理は禁物だ。ベッドをほぼフラットに戻し、腕や肩、足の施術に移つた。どこまで自力で動かせるのか、痛みは出ないのか——。確認しながら富永はKさんに声をかけ続けた。「車いすに乗れるようになつたら、家族と外で会うこともできますよ。がんばりましょう」と。

「自分らしい暮らしをあきらめない」。リハビリのスタッフたちが大切にする理念である。その思いが通じたのだろうか。リハビリを続けるうちに、Kさん本人から「座つてみたい」と

と、視界が天井だけになつて刺激が入らないのです。周囲の音は聞こえるが、何が起きているか見られないのもストレスになります

だからこそ、体を起こした姿勢をできるだけ長時間維持でるのは大事。それには身体が重力を受け止める筋力を取り戻さなければならない。

富永は、Kさんが立つて歩けていた姿を知つていて。自宅で暮らしていた時から週2回、訪問リハビリを通つていたからだ。「腕が上がらないからインスターフォンに出にくい」といった訴えはありました。でもよくしゃべるし、笑顔も見せていた。控えめながら、ほがらかな人でした」とふり返る。

ベッドの角度を30度まで上げようとするとKさんは少し苦しげな表情になつた。無理は禁物だ。ベッドをほぼフラットに戻し、腕や肩、足の施術に移つた。どこまで自力で動かせるのか、痛みは出ないのか——。確認しながら富永はKさんに声をかけ続けた。「車いすに乗れるようになつたら、家族と外で会うこともできますよ。がんばりましょう」と。

「自分らしい暮らしをあきらめない」。リハビリのスタッフたちが大切にする理念である。その思いが通じたのだろうか。リハビリを続けるうちに、Kさん本人から「座つてみたい」と

いう意志表示があつた。

富永には心配もあつた。寝たきりになった人は、「第2の心臓」とも言われるふくらはぎの筋肉が衰え、血圧を上昇させるだけ長時間維持で起きるのは大事。それには身体が重力を受け止める筋圧が急低下するおそれがある。

その懸念は杞憂に終わった。Kさん

は、まずベッドに腰掛け、次には立ち上がり、そして車いすへの移乗を成し遂げた。そしてガラス越しながら、愛する家族との面会を果たしたのだ。

「寝ているときの表情と全然違うね」。スタッフはその変化に喜び、そして大いに勇気づけられた。



「輝」では看護師と介護職が力を合わせる

■「時々入院、ほぼ在宅」

この記事の筆者(浜田)は朝日新聞の記者として20年以上、霞が関・永田町で医療や介護の政策を取りました。記憶に残つてゐるのが、今から8年前の2013年8月に国がまとめた「社会保障制度改革国民会議報告書」です。

医療はかつての「病院完結型」から、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療、実のところ医療と介護、さらには住まいや自立した生活の支援までもが切れ目なくつながる医療に変わらざるを得ない。

(II) 医療・介護分野の改革

日本の医療・介護が果たすべき大きな転換の宣言であり、その後、厚生労働省は「時々入院、ほぼ在宅」というキャッチフレーズのもと「地域包括ケア」を推進してきました。

実のところ「治し支える医療と介護」を実現しているのは、現場で働く1人ひとりの努力である——。当たり前だが、見過されがちな事実を伝えたい。そんな思いで、私を研修生として受け入れてくれた関愛会の職員に話を聞き、ケアの現場を肌で感じています。

(浜田陽太郎)

特集2 第39回大分県病院学会



11月28日、第39回大分県病院学会が開催されました。感染拡大防止のため、学会は現地開催(於B-CON PLAZA)、ライブ配信とオンデマンド配信^{*}からなるハイブリッド形式で行われ、関愛会からも地域連携カテゴリを中心とした一般演題のエントリーがありました。各発表者と学会事務局の許諾のもと、それらの概要をご紹介致します(記載は登録番号順)。

*オンデマンド配信は2021年12月1日~12月15日



高橋 勝

大東よつば病院

社会福祉士

演題

関愛会第3の病院は老健の中に誕生
～大東よつば病院・コロナ禍から生まれたストラテジー～



坂ノ市病院
外来リハビリの取り組み
～柔軟な対応を目指して～

社会医療法人関愛会は大分県内外に複数の拠点を置き、医療、介護等の事業を展開している。2020年3月21日、連携医療機関から転院した患者から佐賀関病院で2名、坂ノ市病院で1名のCOVID-19陽性が確認された。院内感染は阻止できたものの経営的打撃は大きく、特に佐賀関病院の病床稼働率減は深刻だった。一方、佐賀関地域の人口減少を背景としたケア資源再編等の将来計画は兼ねてから当法人内で議論されてきた。患者、利用者の生活、及び職員の雇用を守る為、また法人の中期的計画を併せ、同年5月、「大東よつば病院」の開設が決定された。

坂ノ市病院における外来リハビリとして、様々な事例と向き合った。その中には、生活に困っているが、様々な背景によりリハビリを受けることができない事例があった。そのような事例に対し、坂ノ市病院の外来リハビリとして、取り組んできたことを紹介する。

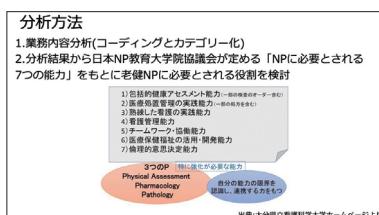
田中 健士

坂ノ市病院 リハビリテーション課

理学療法士

演題

外来リハビリの取り組み
～柔軟な対応を目指して～



佐藤 健誠

共同発表者: 谷山 尚子、赤峰 寿子、姫野 圭子、高橋 勝、長松 宜哉

介護老人保健施設やすらぎ苑

診療看護師

演題

介護老人保健施設における診療看護師の役割検討

2025年に向けた在宅医療の体制構築に向け「地域医療構想による病床の機能分化」及び「医療依存度が高い患者の在宅医療への移行」が進んでいる。介護老人保健施設は在宅復帰を目指すための中間施設であるが、近年では医療依存度の高い利用者の受け皿としての機能も期待されている。演者は現在老健で診療看護師(NP)として活動しているが、活動のニーズは高い。今回、老健におけるNPの役割について検討したため報告する。



大東よつば病院は、社会医療法人関愛会の3つ目の病院として、令和3年2月1日に大分市松岡地区に産声をあげました。当院は介護老人保健施設50床(超強化型)・病院40床(地域包括ケア病棟)建物一体型施設としてベッドマネジメントを行っている。本発表では、当院開院から現在に至る病床運営の取り組みについて報告する。

工藤 真一

大東よつば病院

事務

演題

老健・病院一体型でのベッドマネジメントを模索して
～大東よつば病院開院から～



社会医療法人関愛会は2021年2月1日、当法人としては3か所目となる「大東よつば病院」を新規開設した。「病院」の開設は県内では4年振りであり、稀有な事例である。当院開設に至るまでの開設許認可、特に入院料等、施設基準の推移について報告する。

竜田 洋文

大東よつば病院

事務

演題

病院新規開設時の許認可・入院料等施設基準行程
～県内4年振りの病院開設事例・大東よつば病院のケース～



地域包括ケアの推進を理念に上げている関愛会は、2021年2月1日に佐賀関病院、坂ノ市病院に続く3か所目の病院となる「大東よつば病院」を大分市松岡に新規開設した。開設にあたり、老人保健施設を再編、再編後の老健の建物に許可病床を編入するという特殊な方法を採った。その為、ケア内容等の変更、構築について試行錯誤した。本発表では開設準備の過程、及び開設後の運用の中で行った創意工夫の中から、老健から病院へ転換した際の環境・設備面の変更や見直しについて報告する。

片桐 光代

大東よつば病院

看護師

演題

老健から病院への転換における病棟改造
～大東よつば病院開院・看護部として～



長引くコロナ禍において、日々の業務で強い緊張を強いられる医療従事者は心身ともに疲弊しがちな状況に置かれている。職員の精神的なサポートの必要性を実感し、佐賀関病院メンタルヘルスサポートチーム発足に至った。体調不良や濃厚接触者となり自宅待機する職員やその管理者からの相談対応や、セルフメンタルケアシートの作成周知、全体ミーティングへの参加による体調不良者の記録、セルフケアの提案などの活動を通して、佐賀関病院職員へのメンタルヘルスサポートを実施している。

釘宮 麻衣子

共同発表者: 杉本 剛、後藤 聰美、工藤 綾乃、副田 拓希、原口 和之

法人本部

産業カウンセラー

演題

佐賀関病院メンタルヘルスサポートチームの発足

きよかわの風

— 第10回 —

消すまい文化の灯

妻と一緒に清川町の神楽会館で芝居を見た。県内の「口ナ感染者」が落ち着いていた今年の夏のことだ。清川を拠点に活動する「夢中劇団みかど」が、「神々とアマビ工の談義」——「口ナに打ち勝つ」託宣一を上演したのだ。

御高齢の劇団員さんが奇抜な衣装のアマビ工をはじめとした神々に扮し、高天原を模した手作りの舞台上で、剽軽に振舞い、セリフに魂を込め、素朴にアドリブ豊かに演じ終えた時、私は心からの敬意を込めて惜しみない拍手を送った。劇団主宰するK氏は、演劇を通して地域活性化に長年取り組んでこられた。伝説や歴史もの得意とし、私の脚本を幾度か演じてくださった。最初は約20年前、私が同人誌「おおの路」に執筆した寸劇「頑固爺さんの涙」。2回目は平成30年、第33回大分国民文化祭に向けて書いた創作劇「父帰る」だ。

昨年10月の外来受診時、K氏が「先生何か書いてくれ」と頼んで来た。私は「分

かりました。何か考えましょう」と承諾した。もちろん私は脚本家ではないし自信もなかつたが、今回の「神々とアマビ工の談義」を書いて渡した。

私はK氏の生きざまに強く惹かれる。なぜか? 病を押して手弁当で「清川のき甲斐に、子供のように演劇に

夢中になる生き方に、羨望と共感を覚える。一つの物語をもとに、言葉・音・所作・衣装・背景・光と影を組み合わせ、素人の演技によって劇として産みだす力は並大抵ではない。

K氏をはじめ劇団員の方々の「清川町に文化の香りを放ちたい。人々を元気にしたい」という純粋な思いと活動にひれ伏するばかりだ。私はK氏の劇一筋の歩みに、山頭火の俳句「この旅、果てもない旅のつくづくぼうし」が重なつてより強く共感を覚えるのだ。

私も日々の診察の中で、科学



「夢中劇団みかど」と坪山医師（右から3人目）

のみで判断できない問題に直面した時、土地と人に根付いてきた文化（家族関係、年齢、生き方、価値観、信仰、習慣など）に寄り添うことで解きほぐされた経験を幾度もした。

また地域には民間医療の文化もなお息づいている。お腹の調子が悪い時に、

自作の梅肉工キスを第一選択にする翁がいる。約30個の青梅の皮をすり潰し2時間煮詰めて作るという。それを聞いたら、子供の頃、母親がくれた黒い粘稠な液の味が蘇り、口中に唾液が出てきた。不確実さを根底に持つ医療において、この梅肉のように代々繋いできた文化は、祈りにも似た安心感を与えるのだ。

K氏が、地域文化の灯をともし続

けようと芝居にかける情熱は、精神と肉体の健やかさを保つ原動力にもなる。

「口ナ禍で人が笑うことを忘れ、それが精神および肉体に悪影響を及ぼしている。こんな時こそ笑って生きて欲しい、笑顔溢れる清川町であつて欲しい——。今回の脚本には、

そんな祈りを込めた。

「夢中劇団みかど」には及ばないが、私も医療だけでなく、稚拙ながら書くことで清川町の文化に役立ちたい。また機会があれば夢中劇団と一緒に楽しく夢のある物語を紡げればと願っている。



清川診療所
坪山 明寛 医師
(つばやま・あきひろ)

内科・血液内科。
モットーは「一日一笑」、「医道人道」。俳句、写真撮影、童話創作、囲碁、植物いじりを愉しむ多趣味人

給食でおなじみ

地元愛あふれる佐賀関の乳業メーカー

佐賀関病院から徒歩5分、創業106年の歴史を持つ古山乳業。大分県のマス「コットキヤラクター」「めじろん」のイラストでおなじみの学校給食用「大分つ子牛乳」など、地元愛あふれる乳製品づくりに日々取り組んでいます。今夏27年ぶりに大がかりな設備の入れ替えを行った工場で、社長の古山信介さんにお話をうかがいました。

古山牛乳はどこから来のですか？

大分市内の酪農家2軒と契約し、乳牛約300頭分の生乳（1日約5500㍑）を直接仕入れています。親子孫3代でのおつき合いがある牧場もあるんですよ。大手のメーカーでは、たくさんの牧場から生乳を集めて貯蔵し、搾乳から2日から3日ほどで出荷するのが一般的です。一方、弊社では契約牧場から生乳を工場に直接搬入し、搾乳から16時間ほどで出荷できるのが強みです。

コロナ禍で
どんな影響がありましたか？

昨年の一時期は学校が休校になり、普段なら1日あたり紙パック（200cc）1万8千本つくる学校給食用の牛乳が出来ませんでした。そんな中、家庭

の事情で十分な栄養が取れない子供たちのことを知り、1日のうち1食でもバランスの取れた食事を学校でとる大切さを感じました。私たちの牛乳が、毎日の学校給食の一端を担う、その役割の大ささをあらためて考える機会になりましたね。

佐賀関の工場で設備を 一新したそうですね。

今年8月、約27年ぶりに入れ替えたのは紙パックに牛乳を充填する機械です。紙容器を成形し、牛乳を注いでフタをするまでの工程を無人のクリーンルーム内で行うことができる最新型を採用しました。これで学校給食用の牛乳などをより安定的に供給することが可能となり、省力化・省エネルギー効果もあらわれています。

どう出してきたのですか？

大手乳業メーカーとの違いを

38歳で社長を引き継いだ私の役割は、日本全体の景気が芳しくない中での収益改善でした。たどり着いた答えは「自分が食べておいしい、飲んでおいしい」商品をシンプルに長くつくり続けること。その過程で収益が上がらないヨーグルト牛乳などはやめて品目を絞りました。

もう一つは、地域性を際立たせる戦略です。学校給食用の牛乳には「めじろん」「カボスヨーグルト」には「カボutan」など、大分県民にはおなじみの絵柄をあしらったパッケージにしています。「湯あがりのむヨーグルト」は、今や全国的な知名度がある「おんせん県おおいた」の湯桶のロゴを入れ、県外のお客様であっても、「知っているから安心して手に取れる」という工夫しています。

最後に牛乳をおいしく飲むためのヒミツを教えてください。

牛乳は、季節によつても味が違うんですね。冬は乳牛が脂肪分を蓄えるのでコクがあり、夏は水分をたっぷり摂るのでさっぱりした味わいになります。季節とのおいしさを味わっていただけたら嬉しいです。

実は、私たちの牛乳は、独自の製造工程のため、製造日が新しいほどおいしいというわけでもないんですよ。製造してから2、3日目が甘味や「クのバランスが取れておいしく飲んでいただけると思います。

夫婦二人三脚で

1960年生まれの信介さんは関西の大学ではヨット部で活躍。卒業後、キューピーの関連企業に就職し、東京や長野での勤務を経て大分に戻る。東京で出会った奥様の眞奈美さんは社会保険労務士の資格を持ち、取締役として経営を支える。



有限会社古山乳業

(こやま・にゅうぎょう)

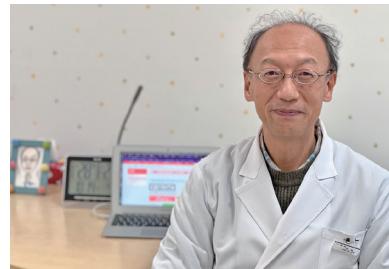
大正4(1915)年、創業。従業員11人で、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を製造し、県内のスーパーに出荷するほか、ここ10年ほどは、「湯あがりのむヨーグルト」などの商品を首都圏のスーパーにも出品している。企業理念は、安心・信頼・工夫。

※YouTubeで配信中の「知つトク大分市特別版 ものづくり企業ガイドブック」で古山乳業を紹介しています。ぜひご覧下さい。



三重東クリニック
別府 幹庸 副院長（小児科）
(べっぷ よしのぶ)

平成4年 自治医科大学医学部卒業
日本小児科学会会員（小児科専門医）
日本小児腎臓病学会会員
日本プライマリケア連合学会会員



Q1 中学生の娘がいるのですが、子宮頸がんワクチンはリスクがあると聞いて、受けさせるべきか悩んでいます。ワクチン接種のメリットとリスクについてどのように考えれば良いですか。

まず、今の日本では子宮頸がんに年間約1万人がかかり、約2,800人が死亡しています。患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にあり、特に、他の年齢層に比較して50歳未満の若い世代での罹患の増加が問題となっており、「妊娠可能な若い女性が多くかかるがん」になってきています。一方、諸外国では子宮頸がんワクチンと子宮頸がん検診が普及することにより、徐々に患者数が減少してきています。

子宮頸がんは他のガンとは違つて、性交により感染するヒトペピローマウイルスというウイルスの感染により起ります。これがわかつてします。子宮頸がんワクチンは、このヒトペピローマウイルスの感染を予防するためのワクチンです。

このワクチンはコーコーラップやオーストラリアでは15年ほど前から広く導入され、特に問題なく現在まで多くの若年女性に接種されてきました。日本でも平成25年に定期接種となりましたが、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛」が報告されるようになり、同年6月14日、積極的な接種勧奨の一時差し控えが発表されました。そして、この発表前後には多くの様々な報道がなされ、「子宮頸がんワクチンは危ない」という観念が植え付けられてしま

A1 年間約1万人がかかり、約2,800人が死亡しています。患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にあり、特に、他の年齢層に比較して50歳未満の若い世代での罹患の増加が問題となっており、「妊娠可能な若い女性が多くかかるがん」になってきています。一方、諸外国では子宮頸がんワクチンと子宮頸がん検診が普及することにより、徐々に患者数が減少してきています。

翌年の平成26年1月20日の第7回予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会では、持続的な疼痛などのメカニズムとして、①神経学的疾患、②中毒、③免疫反応、④心身の反応を考えましたが、①から③では症状を説明できず、④の心身の反応によるものとされました。つまり、ワクチンによる中毒やワクチンにより生じた免疫異常ではなく、心因によるものが考えられるところの結果です。

しかし、全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が組織され、国や製薬会社に全面解決要求書を提出するような動きがあり、当面は接種勧奨の差し控えをつづけるという方針となりました。そして副反応として因果関係が否定できない患者さん達には医療費を支給するなどの救済が行われました。

名古屋で行われた「名古屋スタイル」という調査があります。「これは、3万人の子宮頸がんワクチンを受けた人と受けていない人とを比較したアンケート調査で、24種類の症状（関節痛や倦怠感などの多様な症状）の頻度は接種した人と接種しなかった人の間に有意な差が

ありました。接種者は激減し、接種率は1%未満へと一気に低下しました。ただし定期接種には継続して指定されており、接種希望者は無料で接種できます。

非接種者との差がないということは、子宮頸がんワクチンのリスクは極めて小さく安全性には問題がないということです。医療行為であることから、100%の安全を担保するものではありませんが、リスクは小さくメリットはすごく大きいといえます。そして、厚生労働省の専門家部会は呼びかけを再開することを決めました。接種後に多様な症状が長く続いている患者さんは手厚くフォローを続け、将来の若い子宮頸がん患者さんを減らすための努力を再開していただきたいと切に願っています。

Q2 子宮頸がんワクチンは定期接種だそうですが、スケジュールはどのようになっていますか。

現在、日本ではサーバリックス（2価ヒトペピローマウイルスワクチン）、ガーダシル（4価ヒトペピローマウイルスワクチン）の2つの製剤が定期接種として認可されています。接種スケジュールは3回接種で、サーバリックスは初回接種、初回接種後1ヶ月、初回接種後6ヶ月、たガーダシルは初回接種、初回接種後2ヶ月、初回接種後6ヶ月で接種するのが良いとされています。ただし、様々な理由でさつちりとりしますので、接種期間はある程度の幅をもつてることができます。接種する医療機関とよく相談して決めるといいでしょう。

ないとの結果で報告されています。

2年ぶりの日本選手権、完走を果たす

トライアスロン 新田城一選手(関愛会法人本部財務部所属)

第27回日本トライアスロン選手権が2021年10月23日、富崎市のリゾート施設シーガイア周辺を会場に開催され、関愛会所属の新田城一選手が出場しました。ケガとコロナ禍の影響により、オリンピックと同じ距離(スイム1.5km、バイク40.0km、ラン10.0km)で競う大会への参加は2年ぶり。強い横風の難しいコンディションでリタイアする選手も続出する中、参加31人中25位でゴールした



新田選手は「平常心で臨めましたし、完走できてホッとしてました」とレースを振り返りました。
この2年間はケガからのつらいリハビリに耐え、種田との練習を積み重ねて

きました。今回は久しぶりの本格的な大会で、勝負勘を取り戻すのに苦労したといいます。トライアスロンでは、スイムか



らバイク、バイクからランへと種目を移るトランジションの際に「体の切替え」をいかにスムーズに行うかが勝負のカギを握るからです。

これからは、実戦に必要な力を強化することを目指し、「デコアスロン(ラン、バイク、ランの順で走る競技)の大会にも出場する予定です。

「いつも応援ありがとうございます。オリンピックという目標に向けて、海外の大会出場も視野に入れながら、ランクを上げていきます」と語ってくれました。

第28回 関愛会学術集会開催!!

今回で3度目の開催となつたWEBでの学術集会。今回は大東よつば病院の立川院長の基調講演をはじめいろいろな事業所、職種より発表がありました。アンケートでは「ゆっくり見返すことができる」や「やっぱり対面の方が熱量が伝わってよい」等の意見があり、次回以降の参考にしたいと思います。

心不全の包括ケア -大分県心不全包括ケアカンファレンスによる大分県心不全対策推進事業-

○立川 洋一(大東よつば病院)

急性不全と慢性不全

～チラリPNAをオンライン診療でやってみた件～

○伊東 多樹(法人本部)

請求書と診療明細を送信してみた件

課題：オンライン診療での請求と診療明細書をPDF形式で患者側に送りたいが、そのプロセスは結構手間、→他の医療機関に譲れてしまい。→実現されるとどうぞと学びました。

実験：後で機械でスキャンした請求書と診療明細書を対象者のフォルダに置いて、あとはPNAに任せること。

実験：医療用PCに対象者のフォルダを作成し、PowerAutomateでPNAに連携。

基調講演
大東よつば病院、立川 洋一

心不全の包括ケア
-大分県心不全包括ケアカンファレンスによる大分県心不全対策推進事業-

一般演題
大東よつば病院開院以降の運用

多職種協働でのリハビリテーション会議の有効性
～開院から10周年までの経験～

地域包括ケアを目指して 関愛会運営施設

社会医療法人 関愛会 〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 750-88 TEL.097-575-1172



機能強化型在宅療養支援病院 坂ノ市病院

〒870-0307 大分市坂ノ市中央1-269

TEL.097-574-7722

入院病床:36床(地域包括ケア病棟)

■ 在宅医療連携センター

■ 坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木(通所リハ・定員50名)

■ 坂ノ市病院訪問リハビリテーション事業所

■ 坂ノ市メディカルフィットネスジムABIES

■ 医療型特定短期入所さからいん(定員6名)

診療科
内科・小児科・消化器
内科・呼吸器内科・リハビリテーション科



機能強化型在宅療養支援診療所 王子クリニック

〒870-0009 大分市王子町1-11

TEL.097-536-6633

診療科
内科・消化器内科・
心療内科



機能強化型在宅療養支援診療所 こうざきクリニック

〒879-2111 大分市大字本神崎251-8

TEL.097-576-1782

■ こうざきディーケア・リハビリテーションセンターもみの木
(通所リハ・定員60名)

■ こうざきクリニック訪問リハビリテーション事業所

診療科
内科



在宅療養支援診療所 清川診療所

〒879-6903 豊後大野市清川町砂田1877-3

TEL.0974-35-3561

■ きよかさりハビリテーションセンターもみの木(通所リハ・定員35名)

TEL. 0974-35-2333

診療科
内科



機能強化型在宅療養支援診療所 江別訪問診療所

〒069-0852 北海道江別市大麻東町15-18
(大麻東町商店街内)

TEL.011-386-3233

診療科
内科



高齢者介護施設 ひまわり

〒879-2201 大分市大字佐賀関880-1

TEL.097-524-4141

■ 佐賀関ディーケアひまわり(定員50名)

■ ヘルパーステーションひまわり

■ ケアセンターひまわり(居宅介護支援事業所)

診療科
内科



ひかり ナーシングホーム 輝

〒879-2111 大分市大字本神崎256-4

TEL.097-578-8133

(入所定員22名)

診療科
内科・循環器内
科・禁煙外来



機能強化型在宅療養支援病院 佐賀関病院

〒879-2201 大分市大字佐賀関750-88

TEL.097-575-1172

診療科

内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・小
児科・整形外科・外科・肛門科・耳鼻喉科
眼科・リハビリテーション科・歯科

入院病床:71床
(地域一般病床8床、回復期リハビリテーション病床42床、地域包括ケア病床21床)

■ 大分県へき地医療拠点病院

■ 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設認定病院

■ 大分DMAT 指定医療機関



機能強化型 在宅療養支援病院 大東よつば病院 介護老人保健施設 やすらぎ苑

〒870-0125 大分市大字松岡1946

大東よつば病院 TEL.097-520-3555

入院病床40床(地域包括ケア病棟) 診療科:内科・循環器内科
介護老人保健施設 やすらぎ苑 TEL.097-520-3535
入所定員50名

■ 大東リハビリテーションセンターもみの木(通所リハ・定員40名)

■ 大東よつば病院訪問リハビリテーション事業所

■ 在宅ケアサポートやすらぎ(居宅介護支援事業所)

診療科
内科・小児科・
循環器内科



在宅療養支援診療所 三重東クリニック

〒879-7104 豊後大野市三重町小坂4109-61

TEL.0974-22-6333

■ 三重東介護サポートセンター三つ葉(居宅介護支援事業所)
TEL. 0974-22-7715



江別訪問診療所かかりつけ訪問看護 ちいきの森

住所:〒067-0041 北海道江別市元江別本町1-3
ホクレンショップ元江別店内

TEL. 011-376-0580



有料老人ホーム 海風

〒879-2201 大分市大字佐賀関792-1

TEL.097-575-4800

■ デイサービス海風

海風有料老人ホーム入所(定員37名)

■ デイサービス(定員45名)

診療科
内科・循環器内
科・禁煙外来



訪問看護ステーション いろは

〒879-0307

大分市坂ノ市中央3-14-33-1セルコ・メゾンA号室

TEL.097-535-7577



北区王子クリニック

〒114-0002 東京都北区王子2-17-5

ウエル・ウェル2階

TEL.03-3913-8725



ケアセンター坂ノ市 ひまわり

〒879-0307 大分市坂ノ市中央3-18-9-1

TEL.097-585-5818

居宅介護支援事業所